

見つめた。そして、小聲でその子のことから、また生活上のことをして、上のことをしてしばらく良人と話し合つてねた。

これは、閨秀作家として盛名あつた故素木しづ子氏の日記である。氏の文章が繊細で、如何にも優しい女性らしい特色があることは、特に定評がある。その上、氏の聰明なる天賦の性格と、鋭敏なる感受性とは、何物に對してもよく働いてゐることは、一讀して直ぐに分る。

この一文の如きは、日記などと云ふよりも立派な小品文として書かれたかの感がある。小説家だけあつて、飽く迄描寫式で行つたところに、違つた書き方の例として、ここに紹介する價值があるのである。牛乳屋が世話してくれた八つの少女——それが子守として雇はれると云ふ

小品文としての日記を書くには、即ち自分の日常生活を材料とすることになるのである。これは、初學者に最も便利な方法である。毎日一篇の文章が作れるわけである。時として

のだから、直ぐその背景に涙多き運命が纏綿してゐる。ところが感付かれる。而かも、少女の無心で云ふのであるが、またせた言葉には却つて深い悲しみが現はれてゐる。この一文の如き、短い小説と云つても、好い位である。これによつて見ても、日記であり、小品文であるところの小さな文章にも、書く人の技倆によつては、どんなにでも優れたものが出る。と云ふことを感じなければならぬ。ロシアのツルゲネーフの「散文詩」などは、晦澁な文字や、難解な書き方をしないで、實に優れたものが多いのである。盡く生命を有し、永遠性を持つてゐるのである。話がそれだが、要するにこれ等の作例によつて充分日記を主としたものの性質と價值を知つて、文章の習練に資するやうにしな

は三つも四つもの材料が一日のうちにあるかも知れない。それに直接経験であることに、書き易い便利と書くに足るべき眞實がある。

ければならない。

三 新らしいハガキ文

ハガキ文には、小品文と云ふよりも、寧ろ今日「短文」と稱せられてゐる五行乃至十行で一文をなすものに相當してゐる。無論、書簡文の中の一體であることは云ふまでもない。

手紙ならば、可なり詳しいことが書ける。それが、立派な小品文になる場合も多い。感想でも、議論でも、叙景でも、充分に出来る。また、複雑した事件をも解剖して見せることが出来る。それは、簡潔達意を旨とすべきが手紙の要諦であるとは云へ、十枚二十枚を費してもいけないと云ふやうな制限がないからである。

併し、ハガキ文ではさうは行かない。凡そ、ハガキの紙面に書ける程度の極短かい文章でなければならぬからである。而かも、ハガキだからと云つて、粗略にすることが出来ない。今日人間の生活内容が益々複雑になり、人との間の交渉が益々多くなつて来たのにつれて、次第に文書の往復が頻繁になり、ちよつとした事でも、手間と労力を省く爲に、ハガキで用をすます事が多くなつて來てゐる。それだけに、諸君がハガキを自分のために書き、また人の爲に書かせられる機会が多いと思ふ。さうした時に、ハガキ文——即ち短文を書く習練が充分出来てゐたならば、便利が多いのみならず、随分利益を得ることがあると思はれる。單に利害に關する方面からのみ見ないで

手紙さへ書ければ用が足りる。外の深い學問は入らないと云つた時代は過ぎた。そして、一枚のハガキ文でも、その上手、下手によつて種々な影響を感じなければならぬやうな複雑な世の中になつた。短文でみがついた手紙でハガキ文

もちよつとしたハガキの文章でも、巧みに趣味あるやうに書かれてあると、非常に氣持の好いものである。今日の社會ほど、書簡文の混亂してゐるものはない。形式一點張りの難かしい候文を書く人もあれば、であります。口調の言文一致をとる人もある。婦人の間に於ても、よくつてよ」とか、「さうだね」と云つた調子で平氣で書く者もあれば、擬古文で牛の涎のやうに長々しい勿體振つたものを書く人もある。かくの如く、種々様々な文體があつて、各自勝手にやつてゐるやうな状態にあるから、到底いつ統一が出来るものやら見當がつかない。それで、すむ人同志の間ならば、敢て差支ないが、各々反對な書き方をする人々が手紙を書く時は、變な者になつて來るであらうと

を書くことは、文章を學んだものに與へられた特權であり、賜物である。

ハガキ文などに長い時間を費すやうでは駄目だ。忙しい、目まぐるしい世の中だ。それに、なるべく、簡單で、自由な文體が必要だ。言文一致が、一番よくそ

思ふ。口語體の自由な文體をとる者から見たら、候文を書くのが古臭いやうに思はれるであらうし、候文の方から見れば、口語體が何となく輕薄なやうに見えて、禮儀を缺いてゐるやうに感ずるかも知れない。先づ統一することが困難としたら、吾々はどうしたら好いかと云ふに、矢張、自由な現代の言文一致體をとるのが好いと信ずる。分り易く、達意を旨として書くには、これに越した適當な文體は、今日の日本にはないのである。言文一致だからと云つて、必らずしも、輕薄になるわけのものでもなく、禮儀を失するわけでもない。要はその人の書き方にあるのである。そこで、本論のハガキ文に返らねばならぬが、これとて

の目的に適してゐる。併し、そんないな言葉使ひではない。矢張短文によつて、平常に練習しておいて、いざと云へば直ぐ書けるやうにしなければならぬ。

も、一般の書簡文と同じく、第一に達意と云ふこと、第二に簡潔に書くこと、第三に禮儀を失はぬこと、第四に相手に悪感を起させるやうな文字を使はぬこと、第五に時間とか、場所などを正確にはつきりと書くこと、ざつとこの位のことを辨へて居れば過ちはないだらうと思ふ。それに、根本的に大切なものは誠意を以て書かねばならぬことである。手紙と云ふものは必らず對象があつて書くものである。一人のこともあらうし、數人の場合もあらう。それは何れであつてもよろしい。兎に角、只一片のハガキと雖も、その人格の現はれに違ひないのだから、誠實の心を以て筆を執る事は何よりも大切である。偶々その人の不注意から誠意があるのかないのか疑はしいやう

なハガキをうけとると、非常に不快なものである。その爲に、差出人の人格をすら疑ふやうになるものである。だから、この事は充分注意をして、過ちのないやうにしなければならぬ。それから、前にも種々な場合に説いたやうに、日記文などと同じく、ハガキ文にでもなるべく趣味あるやうに書いて相手に面白く讀ましめ、また警句や、ウイットをも時には入れて、人の意表に出づるやうに書くのも、その事件の種類によつては必要である。こゝに、小品文の一體たる短文を學ぶ必要があるのである。以下少しく實例を擧げて、説明をしたいと思ふ。時候見舞のハガキを出すにしても、

ハガキ文は、その相手により、その通信すべき内容の如何により、よほど注意深く書くやうにしなければならぬ。ウイットや警句と云ふことも絶對にいけない場合があるのは云ふまでもない。要するに相手の感情を尊重するのが必要である。

拜啓時下嚴寒の候、尊堂御一同様如何御消光被遊候哉御伺申上候降而小生方一同無事にて暮し居り候に付乍他事御放念下され度候先づは右御見舞迄尙御合息達へよろしく御鳳聲願上げ候
 と云ふ風に書いても充分用事は足りる、別に過つてゐるなどとは云へない併しながら、かう云ふ型にはまつたやうな書き方は、どうも、只義理一遍のやうに思はれて相手のうけとる感じが鈍い丁度、年始状などと同じやうに、誰も事務的に書いて出す虚禮のやうに思はれる點を免れない。それでは折角の此方の好意がそのまゝ先方に通じないことになる。残念なことではないか。
 で、かう云ふ風に書きかへたらよからうと思ふ。

近頃の寒さは格別です。御地はさぞ霜がひどいこととお察しします。御合息達の學校通ひ、それから寒さ嫌ひの伯母様の御苦心さこそとお察しいたします。皆様充分御大切になさいます。此方はみんな丈夫で暮らして居ります。
 この方が思ふ事が自由に書いてもゐるし、眞情が流露してゐることになる。合息達も歡ぶだらうし、炊事などに辛がつてゐる伯母さんも慰められるところがあるに違ひないのである。長上のも、目上の人には、言文一致でも、言葉使ひを丁寧にさへすれば決して不快な感を與へたり、禮儀を失つたりするものではない。いばかりでなく、却つて親しみを感ぜさせ、此方の心持を觸れさせる事が

出来るのである。

友人同志とか、同輩の間ならもつと碎けた憤々しい調子で書いても差支ない。會へば馬鹿にぞんざいな言葉で、話し合ふものが、ハガキなどの上でだけ、變に堅苦しい持を着たやうな調子の文章を書くこと却つて、その眞意を通達し得ぬやうな損がある、それよりも直接眞意を傳へるやうに努力すべきが文章の第一義である。

もう一つ例をあげて見よう。今度は案内文である。

明日は亡兄の一周年に相當いたします。就ては法養を營み、親籍一同にて墓參する筈ですから、生前の唯一の親友たりし貴兄の御出でを切に希望いたします。

友人に送るハガキ文としては、これで充分要領を得てある。これ以上に何か書き添へれば、蛇足になると思はれるであらう。併し、このまゝではどうもまだ意が達しられぬと思ふ。第一の缺點としては、時間や場所が明らかにしてないから、貰つた方では、先づそれにまごつく。何時頃にどこへ行つて好いのか分らない。それに、親類の人ばかりのところへ、他人の自分一人がのこくと出かけて行くのは變だ。それは、友人は歡んでくれもしようし、地下の友もうれしく思つてくれるだらう。併し、場合が場合だから不意に僕が行つて他の人達が迷惑に思はれるやうな事がないだらうかと云ふことが懸念されて、躊躇しなければならぬことになる。そして、とつおいつ思案をしたり、家

の人達に相談したりしなければならぬ。
相手にそんな面倒な思ひをさせるやうでは、前記のハ
ガキ文はどうしても落第點をつけねばならないことにな
る。で、次ぎにもつとよくなるやうに書き直して見なけ
ればならぬ。

多分貴兄も思ひ出して下さるでせうが、兄が亡くな
つたのは今月の明日です。もう一周年が参りました。
早いものです。明日午前法會を営み、午後は墓参で
す。来るのは親類のものばかりです。家内一同、せめて
は生前の親友の一人位は来て欲しいと申します。御
迷惑かも知れませんが、故人を初め、一同の者が満足
するので、すから、午前九時頃迄に御越しを願ひ度う

ございます。

少しく長くなつたが、ハガキにはこれ位のことは書け
る。もつと短縮すればこれを土臺とすれば好いかう云ふ
風に書けば、此方の意志も徹底するし、要領も得ることゝ
思ふ。その上、充分満足して来て貰ふことが出来るのであ
る。かくの如く、ハガキ文の要領はほんのちよつとしたと
ころで得られもすれば失はれもするのである。そして、ほ
んの僅かな一言一句によつて、對者に與ふる感動に非常
な相違が生じて来るのである。
すべて、文章を書くには、かくの如き細心の注意の必要
であることを心得てゐなければならぬのである。

小品文作法終

大正七年五月十五日印刷
大正七年五月廿九日發行

小品文作法
定價金五十錢

著 者 德 田 秋 聲

發 行 者 原 武
東京市神田區美土代町一丁目四十二番地

印 刷 者 田 中 三 郎
東京市本所區番場町四番地



○ 發 兌

東京市神田區
美土代町一丁目

電話神田一九〇九番
振替口座東京三三番

止善堂書店

●東京市立一ツ橋高等小學校校長
●東京市立女子實業補習學校校長

湯澤直藏先生著
玉木愛石先生書

新編實業習字手本

附國民心得
菊判大和綴百頁

定價 參拾五錢
送 料四錢

本書は實業補習學校規定の精神に基き國語科の書き方綴方の練習に充つる目的を以て編纂したるものにて材料は農工商實業に關する事項中最も適切にして實益ある文題を網羅し一方には習字の用書となり、一方又作文の練習書としての經濟的良書にして更に上欄の國民心得は何人も心得置くべき日常必要の事項を掲げたり。

農學士 山崎延吉先生序
農學士 那須皓先生序
久保田正彥先生著

農村青年讀本 上

菊判大和綴百餘頁

定價 參拾八錢
送 料四錢

著者は我が農村青年の要求する所を熟知せるの人、今や我が農村青年は其の心甚だ飢ゆ、心飢ふたるものは良書によりて心の糧を得ざるべからず。本書は此の要求に應ずべく農村の状況に精通せる久保田先生が孜孜として編著せし物なれば種類多き農村用讀物の内にて尤も傑出して趣味と實益とを兼ね備へたる稀有の一大良書なり。

我農生 山崎延吉先生著

農村青年の指導

四六洋裝三百四十頁
總假名付全一冊

定價 金六拾錢
送 料六錢

著者は農村の先覺者として名聲噴々たるの人、曾つて某監獄に非道の罪人六百有餘名をして三寸の舌頭片言一語、宜く幾多教誨師をして及ばざるの感激をあたへしめ典獄をして驚嘆せしめたる事有り以て著者の人格を知るを得べく洒脱なる中に嚴肅なる教訓を藏し自ら其の温容に接するが如く全編悉く農村青年の金科玉條に満たされたり。

東京市神田區美土代町一丁目四十二番地

發兌 止善堂 振電 替話 東神 京田 三〇 六九 一九

38

375

11

終

